

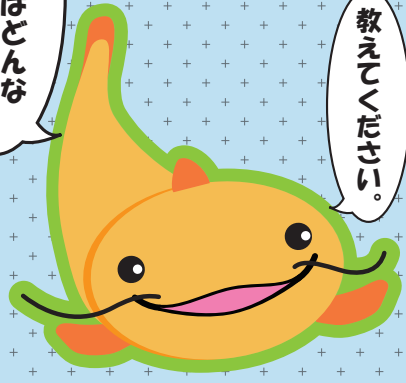
うみっこ通信



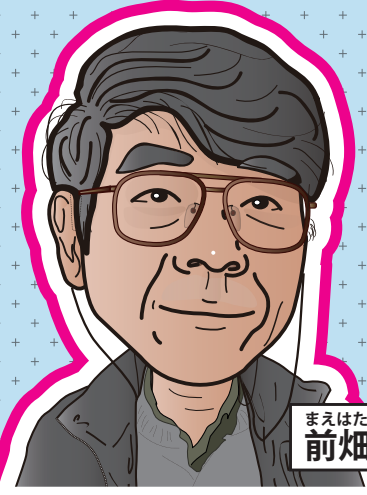
滋賀県立
琵琶湖博物館

LAKE BIWA MUSEUM

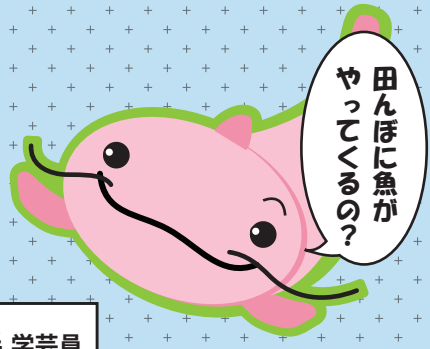
前畑さんはどんな
仕事をしているの??



教えて下さい。



まえはた まさよし
前畑 政善 学芸員



田んぼに魚が
やってくるの??



ナマズの産卵写真

田んぼへ やってくる 魚たち と “フィールドレポーター”

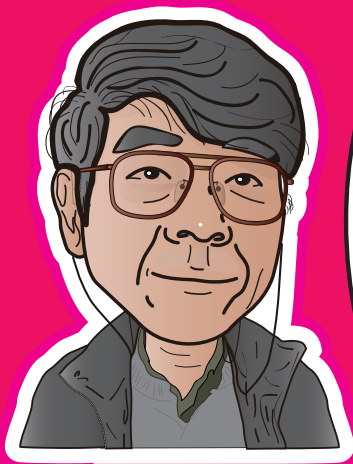
今回登場する前畑政善学芸員は、琵琶湖や河川などにすむ淡水魚を35年にわたって研究しています。特に田んぼに関わりのある魚、ナマスやフナ^ナの産卵などを中心に研究していて「ナマス博士」とも言われています。ナマスを調査する時期になると、約2ヶ月間、毎日雨の日も風の日も夜遅くまで、田んぼに行ってナマスを観察しています。

また、今回は地域住民が中心となって、くらしや生き物などについて調査を行う「フィールドレポーター」の活動と、最近、琵琶湖から新しく発見された生き物（カイミジンコ）について紹介します。

目次

- 1 …… 今回の特集
- 2 …… 田んぼへやってくる魚たち
- 3 …… フィールドレポーターを知っていますか?
- 4 …… 琵琶湖博物館の学芸員が新種を発見しました!

2010.3
No.3



わたしはナマズを
研究しています。

田んぼへ やってくる魚たち

～コイやフナ仲間（コイ科）～

たう

さかな た

田植えのころになぜ魚が田んぼにやってくるの？



田植えのころの
田んぼのようす



田んぼの中で産卵する
ナマズの雌雄



田んぼの中でそだった
ナマズとフナの子供

田植えの季節になると、魚たちは産卵するために田んぼへやってきます。田んぼは、流れがなく、水温も上がり、えさとなるプランクトンもたくさん発生するので、魚の子どもには都合がいいのです。



田んぼには、どんな魚がやってきますか？

ナマズ・フナ類・コイなどです。60センチのナマズもきます。

大きいね！



水路でとれたコイ



魚は田んぼの中にも入るのですか？

昔は田んぼの中にたくさんの魚が入っていました。しかし、今では田んぼと水路の間に大きな落差ができたため、田んぼにはほとんど入れません。そこで、最近では魚を田んぼの中に入れるためのいろいろな工夫が行われています。



水路の水面を高くし、魚が入って産卵できるように工夫された田んぼを「魚のゆりかご水田」といいます。



どのように調べるのですか？

排水路に魚をとるためのしかけ（“もんどり”と言います）を置いて、毎日、決まった時間に、魚がとれていないかを調べます。



もんどりを水路にしかけているようす。もんどりは、一度魚が中にはいると、出られない仕組みになっています。



魚が入れなくなっている場所のようす。



田んぼの魚を調べていて、 どんなことがわかりましたか。

今までナマズの産卵時期は5～6月とされていましたが、4月下旬～8月下旬までと長いこと、田植えの時に、流れるにごり水がナマズを田んぼへと誘うきっかけになることなどがわかりました。



水路にやってきたナマズ



田んぼはいろんな魚たちにとって、大切な場所なんだね！



“フィールドレポーター” を知っていますか？

～フィールドレポーターの活動～

「フィールドレポーター」
になるには、博物館の
ホームページをチェック
してね。



① 「フィールドレポーター」って何ですか？

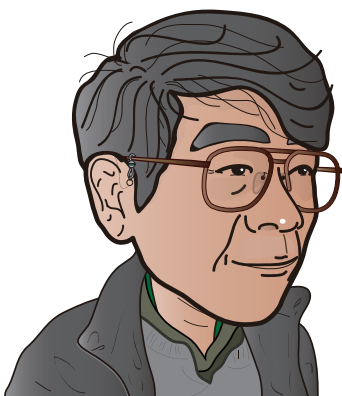
地域の方が滋賀県内の身近な生き物の分布や、暮らしの
ようすなどを調べ、それを郵便やメールで博物館に送っ
てくれる人たちで、現在は 130 名います。

② フィールドレポーターから送られてきたもの(情報)は どうするのですか？

フィールドレポータースタッフの方たちが整理しまとめ、
その結果を送っていただいた人に返送したり、展示室にポ
スターとして展示します。



フィールドレポーターの調査結果を
展示したポスター



これまでフィールドレポ
ーターの方々と一緒に調査を
することによって、滋賀県
内の新たな発見もできまし
た。さあ、みんなも一緒に
調査にでかけましょう！

③ 「フィールドレポーター」は いつから始まったのですか？

琵琶湖博物館がオープンした次の年 1997 年
からです。

④ 「フィールドレポータースタッフ」って何ですか？

フィールドレポーター活動のお手伝いをされる方
です。約 10 名のスタッフが月に 2 回博物館に来て、
調査について相談したり、調査結果をまとめたり、
そのほかいろいろな活動をしています。



ほくも調査に参加
してみたいなあ！



フィールドレポータースタッフの
野外調査の風景

フィールドレポーターへのお
知らせもスタッフが
作ります(下:最新の
「掲示板」)。



⑤ 最近、どんな調査をしましたか？



テントウムシの写真

年末年始の食べ物調査やテント
ウムシの調査、最近「近江こ
とば」の調査をしました。詳し
いことは、琵琶湖博物館のホ
ムページをご覧ください。

<http://www.lbm.go.jp/>

※テントウムシ調査に参加された方の感想「テントウムシにはいろいろな
模様があり、地域によってその種類の割合がちがうことがわかりました。」

うみっこ トピックス

※2009年10月に学術雑誌で発表され、新聞に記事が載りました。



いままで見
かけてなかつ
たんだよ!

琵琶湖博物館
の学芸員が

新種

を発見
しました!

琵琶湖博物館学芸員のスミス主任学芸員が「カイミジンコ」の新種4種類を琵琶湖の湖底から発見しました。

カイミジンコは小さな生き物で、カニ・エビ・ミジンコなどの仲間です。田んぼや川、湖などの水の中にすんでおり、二枚貝によく似ています。大きさは約1.5mmで体を保護するために二枚の硬いカラに被われ、8対のあしと1つの目があります。あしには色々な役割があり、砂を掘ったり、歩いたり、餌を食べることなどに使われます。

今回発見した新種は大変小さく、大きさはわずか約0.4mmです。カイミジンコが小さいのはなぜでしょうか？それは、カイミジンコを食べる魚から身を守るために、安全な砂の中にすんでいるからです。砂と砂の間は狭いので、そこにすむためには小さくなくてはいけないのです。

琵琶湖は非常に大きな湖なので、まだまだ発見されていない生き物が数多くいます。

君たちも、もしかしたら新しい生き物を発見できるかもしれないよ!



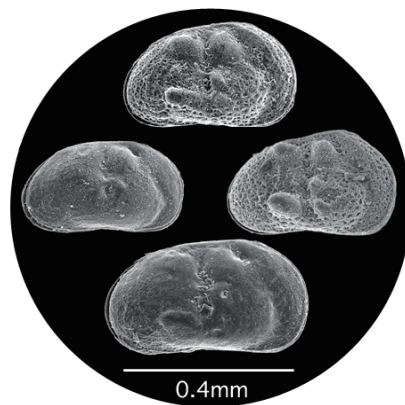
琵琶湖湖岸で採集している風景



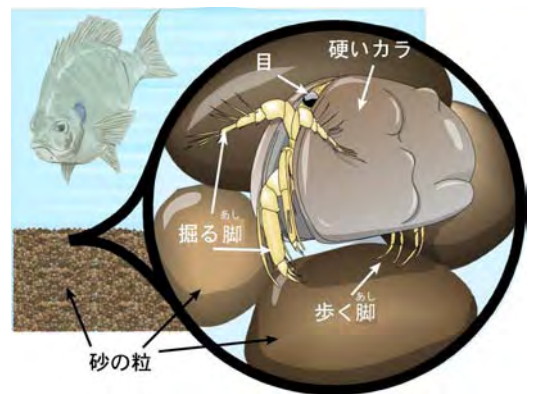
船を使って琵琶湖から採取



このお話は、
ロビン・ジェームス・スミス
学芸員に聞きました。



(図1) 発見したカイミジンコの新種



(図2) カイミジンコの体のつくり